

ドイツ  
佐藤 誠司

私がライプツイヒに参りましてからはや四カ月が過ぎ、少しずつこちらの生活に慣れてきたように感ぜられます。月曜日から金曜日の午前中は大学付属のドイツ語コースへ通っております。火曜日の午後にはケルバー教授の授業に出席、題材はいわばネパールの「すごろくゲーム」です。このゲームにいかなる仏教理論、シンボル性が潜んでいるかを見出すことが、この授業の目指すところです。また、ケルバー教授は、私がドイツ語が不十分なのを考慮してくださり、ご多忙の中、水曜日の午後に対一で説明してくださいます。まったく感謝せずにはいられません。

それではまた、ご報告させていただきたいと思えます。(一九九三年十二月) 一月と二月にドイツ語の試験があり合格しました。これによって私は、この春から正式にドクターコースの学生となります。今までのようにドイツ語の授業に出席する義務もなく、留学の本来の目的である「インド学の研究」に専念できることを喜んでおります。これも理事長さまはじめ多くの方々のおかげと、心より感謝申し上げます。研究を本格的に始めるにあたり、専門書などを日本でそろえなければならず、二月から三月にかけていったん帰国いたします。その際ぜひとも理事長さまにお目にかかり今までのお礼を申し上げたいと思いません。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ご自愛をお祈り申し上げます。

(一九九四年二月)

オランダ

早川 敦

黒田武志理事長先生の育英会のご事業がすでに十年の節目を迎えるというこ  
とで、心からお祝いをもうしあげます。ご恩恵にあずかりました者の一人とし  
て、一層の発展をお祈り申し上げております。こちらの大学の方は九月頃に修  
了の予定ですので、その後一時帰国してご挨拶にうかがいたいと存じます。

修士論文は、かなりおもしろい方向に進展しております。目下、かなり大胆  
な仮説を展開していて、指導教官のボーデヴィッツときおり激しい議論を戦  
わせたりしております。仮説の検証に成功すれば、とてもおもしろいことにな  
るかと思いますが、今のところ五分の確率といったところです。がんばりたい  
と思います。

インド

協領 至

昨年十一月十七日にプーナ大学にて、P.D.委員会による認定会議が開かれ、  
私も正式にP.D.研究生として登録されました。ジャイナ論理学と仏教倫理学と  
の比較分析を研究対象とし、“Nyaya-dipika”という十四世紀の裸行派の論書を  
メインテキストにします。現在私の所属するサンスクリット高等研究所で、教  
授陣のご教示を受けながら、クリティカル・エディション、翻訳、ならびにノ  
ートを作成中です。すべてがかなり難解で、時間をかけた丁寧な読み込みが必  
要とされますが、今は留学させていたことで得られた貴重な時間を、こ  
のテキストの読み込み一つに集中させてみたいと思っております。

日 本

嘉木揚 凱朝

この強大な伝統社会を誇るインドさえも、時代の激しい「うねり」には逆らいがたく、人びとの生活や考え方も変わりつつあるようです。新しい価値を模索し、困惑する人びとが知るべきは、かつて釈尊が経験され、黒田理事長先生がことあるごとに触れられる、「ゼロからの出発」ということでしよう。私もこのことを私なりに受け止めて、「今の自分がすべきこと」を求めたいと思います。

黒田先生お元気でいらつしやいますか。お釈迦さまの誓願に生きて、世の人びとに尽くすことを第一とお考えの先生に、私はたいへん敬服しております。前世のご縁のおかげで、先生にお目にかかることができました。それからたいへんお世話になりました。先生のご苦勞によって、私はようやく留学僧として日本にまいることができました。先生のご恩情とご厚意が一生忘れられませんが、心から感謝しております。

私は日中仏教交流のために日本にまいりました。これから日本語を一生懸命覚えるようにがんばります。将来、先生のご期待に添うように、貴国の仏教界の先生方と一緒に世の人びとに仏教精神を深く影響させるように努力していきたいと存じます。